

社会福祉法人アイアイハウス 2020年度事業報告書

総論

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、社会のあり方が一変した1年でした。とりわけ社会保障分野・障害者福祉に関わる分野でも感染症罹患の不安と戦いながら仲間の安全と安心を勝ち取るために奮闘した1年でした。また、法人にとっては、無認可共同作業所でスタートして30年の節目を越え、2名の仲間と2人の職員で始まったアイアイハウスも、現在は上京区の「アイアイハウス」、北区の「紫竹アイアイハウス」と「ショートステイ紫竹アイアイ」、東山区での「アイアイホーム」と「ショートステイアイアイ」、同じく東山区の「ヘルパーステーションアイアイ」と「相談支援センターアイアイ」と、3つの行政区にまたがり、4つの事業を7ヶ所で展開するまでになりました。登録の仲間も最大40名になり、職員も正規・非正規併せて50人を超え、年間の予算規模も約2億円となっています。2020年度も引き続き仲間への日中の支援はもとより、暮らしを支える場面がさらに増大した1年となりました。グループホームや短期入所の事業も活用しながらも、制度の枠を越えての暮らしの支援にも取り組まざるを得ないなど、業務上の職員への様々な負担の増大など、今後に向けてのさらなる課題もより明らかになった1年でした。あわせて、暮らしの支援への二ードが高まる中、制度そのものの矛盾がある中では、主に人件費を主とする支出の増大と、各種補助金の大幅な削減などが法人の安定した経営を圧迫する事態も招いています。

2020年度重点課題(再掲)

① 仲間たちの日中活動のさらなる充実をめざします

<現況>

紫竹アイアイハウスが開設して3年が経ちました。アイアイハウス全体で仲間の登録は41名となっています。またこの間は、仲間たちの生活リズムの確立や見通しも視野に入れ、通所日数の増をめざして、祝日開所や土曜開所にも取り組んで来ています。日中活動については、制度で決められている上限である1ヶ月23日の通所をめざしての検討が求められます。アイアイハウスの仲間たちの障害種別や障害の程度、年齢層も幅広くなる中で、あわせて家族の介護度が低下していく中で今後ますます仲間たちひとり一人の実態や願いに基づいて各事業の果たす役割をより明確にする事が求められます。

<重点課題>

仲間たちの実態に合わせて、アイアイハウスでは引き続き祝日の開所と土曜の開所をそれぞれアイアイハウスと紫竹アイアイハウスで継続して取り組みます。また、仲間たちの働くことをはじめとした日中活動の充実はもとより、働くこと以外の諸活動(機能訓練やストレッチなど)や行事(創作活動やリクレーション、外出や旅行、自治会活動など)もいっそう充実させていきます。あわせて、仲間の高齢化や障害の重度化に伴い、往診等も含めた医療的ケアや健康の維持、身体づくりなどにも積極的に取り組んでいきます。

② アイアイホーム等のくらしの場の充実と家庭での暮らしの支援を進めます

<現況>

アイアイホームでは、祝日開所に伴うホームの祝日宿泊利用と週末である金曜日までの宿泊も実施して来ています。また、家族の高齢化等による家庭での介護力の低下に伴い、土曜や日曜、長期休暇中のホーム利用についても実施を始めました。残念ながらご両親ともが家庭で仲間の介護ができない事例もあり、残念ながら入所施設を利用せざるを得ないケースや、長期の入院生活を余儀なくされたケースもありました。

<重点課題>

仲間の加齢に伴い必要になる医療的ケアに係る支援や、土日や長期休暇中のホーム利用も視野に入れた支援の体制作りなどにも取り組み、より一層アイアイホームでの暮らしを質と量の双方ともに充実させることが望まれています。あわせて、家族の高齢化や介護力の低下も進むなか、アイアイホームや紫竹アイアイハウスのショートステイ事業もより活用の頻度を増やし、充実して利用できるように努めます。また、アイアイハウスに通う仲間たちの将来の暮らしを見据えて、職員と家族がともに考えていく場を作ります。

③ 仲間の生活や余暇を支える手だてを充実させます

<現況>

指定特定相談事業所を中心として、仲間たちの日中や夜間の支援だけでなく、ライフサイクルに沿った仲間一人一人の暮らし全体を考慮ことや、余暇の充実等をめざしてそれぞれの課題の解決に向けて法人として取り組みを進めてきました。

<重点課題>

そのためにも、ヘルパーステーションアイアイの質・量ともに拡充をはかり、仲間たちのニーズに応じた居宅介護の利用を促進します。とりわけ希望の多い移動支援の事業の開始を進めます。障害者地域生活支援センターや保健センター等の他機関、他の事業所とも連携し、仲間たちの余暇を豊かに支える取り組みとともに生活の課題の改善に向けた取り組みにも力を注ぎます。

④ 「法人理念」と「法人の基本方針(めざすこと)」に基づく実践と運営を進めます

社会福祉法人アイアイハウスの「法人理念」と「基本方針(めざすこと)」を通じて、日々の取り組みの中で職員をはじめとしたアイアイハウス関係者の団結と意思統一をより進めます。そのためにも「法人理念」と「基本方針(めざすこと)」を実現できる実践力の向上と経営の確立と安定を図るために、就業規則をはじめとした諸規定の更なる整備と充実に着手します。

⑤ 法人と職員集団の役割を明確化するとともに、法人の組織機構をしっかりと確立します

2020年度重点課題が実現できるよう、地域も分かれ、事業種別も異なる各事業が有機的に連携し機能するよう、強固な組織機構体制を確立します。そのためにも2020年度はかつてなかった事業所間の人事異動・人事交流を行います。その中で、個々の職員が自分の所属する事業所だけでなく、幅広い視野を持てるようにします。また職員の職責や役割分担、業務分掌を明確にするとともに、職員会議の充実と研修の充実を図ります。キャリアパス制度を充実し、現場の責任者である主任を個々の事業所にも配置する中で、個々の責任所在を明確にし、職員のやりがいとともに働きがいの充実を目指します。また、法人とアイアイハウス家族の会やアイアイハウスを支える会との連携をより一層強化します。

⑥ 仲間の置かれた実態や要求に基づく制度改善に向けた運動に積極的に取り組むとともに、地域での理解と支援を広げます

国において、財政抑制に発して権利としての社会保障制度が後退していく中、仲間たちの願いにこたえるべく、制度改善の運動に積極的に取り組みます。また、そのためにも各障害者団体や障害者施設、他種の社会福祉事業や社会福祉協議会等とも連携を深め、人的な交流も含めて積極的に連帯します。同時に、地域の住民や地域の各種民間団体とも連携を深め、まつり等の機会を通じてアイアイハウスに対する理解と共感を広げる取り組みを進めます。

⑦ 間たちの願いに基づく中長期計画を策定します

社会福祉法人アイアイハウスとして、3年から5年後を見据えた中長期計画に基づいて事業を進めます。そのために法人役員だけでなく、仲間家族や職員、幅広い関係者が参画しての検証委員会を設け計画の推進に努めます。
りを進めます。

2020年度 アイアイハウス 事業報告

文責:丸山 徹

仲間状況

- ① 定員:20名
- ② 現員:18名(男10名 女8名)
- ③ 一日利用者数概算:14名~17名
- ④ 年齢構成:22歳~61歳
- ⑤ 障害支援区分

区分4	区分5	区分6
3名	5名	10名

⑥入退所経過

- ・2020年12月 1名入所
- ・2021年1月 1名退所

職員状況

- ① 常勤職員:8名(男6名 女2名)
- ② 非常勤職員:10名(男1名 女9名) ※うち看護師1名 送迎運転専属1名

施設

①設置等経過

- ・2020年11月 ガス乾燥機(製品名:乾太くん)1階裏庭に設置
- ・2021年1月 1階和室の畳入れ替え
- ・2021年3月 2階トイレ用冷房、換気扇設置

保健

① 看護師勤務

- ・月1回看護師が勤務し、仲間の「体重」「血圧」「脈拍」の測定を実施しました。月々の各項目の推移データの作成も看護師が行いました。

② 歯科健診

- ・2021年2月に仲間の歯科健診を実施しました。毎年一回京都府歯科医師会から派遣された歯科医師と歯科衛生士により実施し、健診結果は各ご家庭に報告しています。また健診後は歯科衛生士による「衛生講話」も実施しました。虫歯のメカニズム、歯磨きの方法やポイント、市販の歯磨き粉や液体歯磨きのことなど学ぶことができました。

③ 新型コロナウイルス対策

- ・朝と昼の2回、仲間・職員の検温、換気を実施しています。
- ・手洗い・消毒、マスクの着用を実施しています。マスクの着用に関しては、仲間は半数程度ができる状態でした。常時着用できる仲間は数名程度ですが、外出の際などポイントを絞ればあ

- る程度できる仲間もおられました。職員はサージカルマスクの着用を徹底しています。フェイスシールドはあるが仲間が気になり触ることによる負傷の危険もある使用できていません。
- ・昼食は仲間と職員は時間差を付けて取る、同じ向きで摂るなどしていました。
 - ・飛沫防止用アクリル板については他の危険が大きい(倒してケガ、留め具でケガなど)ため使用できていません。アクリル板以外の仕切り版の使用を検討中です。
 - ・通常時の定期的な PCR 検査は実施していません。

④ 京都市からの新型コロナウイルス用物資の供給がありました。

マスク	フェイスシールド	消毒液
-----	----------	-----

防災

① 避難訓練

- ・月一回仲間・職員合同で避難訓練を実施しました。毎回テーマや内容を変えています。2020年度は「火災」「地震」「大雨」「原発事故」を主なテーマとし、それらを組み合わせたものや救急活動を組み合わせて実施しました。またテーマや内容の学習も簡潔ながら実施のした。例えば京都市の大雨時のハザードマップ、地震の断層の確認、負傷した者の救助法などです。

② 防火管理者・避難計画書

- ・防火管理者や避難計画書を現状に合わせるため変更手続き中。

② 災害救助用物資

- ・2021年3月に京都市から災害救助用物資が配給されました。

毛布	凝固剤	飲料水(1缶490ml)	米粉クッキー	アルファ化米
20枚	200回分	48缶	200食分	60食分

仲間の活動

① 1階グループの取り組み(月曜日～金曜日の午前)

- ・1階グループは『さんSUNグループ』と『ガンバルゾ☆グループ』に分かれて活動しました。

『さんSUNグループ』は「言葉と音楽」、「リサイクル活動」、「生活活動」、「創作活動」、「散歩」を中心に取り組みました。また新たな取り組みとして「くつろぎの時間」も実施しました。「くつろぎの時間」ではゆっくりした音楽を聴きながらコーヒーなどを飲むという内容で、ほとんどの仲間が着席できたこともあり、ゆったりと楽しめる取り組みになりました。「言葉と音楽」は進行する職員が固定化されているので、他の職員も進行できるようにしていくことが課題となっています。

『ガンバルゾ☆グループ』は「下請けの仕事」を中心に取り組みました。また2020年度はスクワットなどの「体操」や「散歩」にも新しく取り組みました。

② 2階グループの取り組み(月曜日～木曜日)

- ・「お米の仕事」、「訓練」、「フェルト製品製作」、「創作活動」、「言葉と音楽」、「スヌーズレン」を中心に取り組みました。「お米の仕事」は2020年5月、6月は新型コロナウイルスの影響で販売を自粛しました。またお米の計量作業では計量道具の変更により仲間が作業しやすくなり楽しんで取り組みました。毎週月曜日午後の「言葉と音楽」では新しい職員のアイデアによりいつもと異なった活動もできました。毎週木曜日の午後の「スヌーズレン」は昼寝の時間になることも多かったです。

③ 仲間の会(金曜日)

- ・毎週金曜日に1階グループは午後のみ、2階グループは午前と午後にレクレーションを行う仲間の会を実施しています。

2020年度は外出の減少により、室内でのゲームを充実させました。1階グループでは定番のボウリングやサッカーに加え、新しいゲームとして「ボールころがしゲーム」を追加しました。的の器にボールを転がして入れるゲームで転がす立ち位置によって得点が増加したり、減点ゾーンがあったりと誰にでも優勝のチャンスがあることで仲間みんなが楽しめるゲームとなりました。また「新聞つなひき」も今年度から実施しています。このゲームも誰にでも勝てるチャンスのあるゲームとなっている。

2階グループはも外出の減少により、室内のゲームを充実させました。「かるた」と「坊主めくり」の2つのカードゲームを追加した。どちらも身近な物や人物の写真、絵を使うことで仲間に分かりやすいものとなりました。

また2階グループでは7月の1ヶ月を通して「アイアイオリンピック2020」と題して、運動系企画の総得点を競いました。さらに2階グループは「スポーツセンター」に行って運動をするという取り組みもありましたができていません。「クリスマス会」ではミニストップ千本丸太町店様よりケーキなどの寄付をいただきみんなで楽しく過ごせました。

④ 外出企画

・ほとんど実施できなかったが、春の「お花見」、秋の「紅葉狩り」、新年の「初詣」は人出の少ないところを選んで実施できました。また「将軍塚へドライブ」も1階グループは実施しました。

⑤ 行事

・「法人の集い」「フナオカスタンダード」「日帰り旅行」など行事は実施できていません。

課題・まとめ

① 新型コロナウイルス関連(保健の項記載以外)

・2020年度は新型コロナウイルスの蔓延により仲間、職員の活動の制限が多く、思うような活動ができていません。5月の約1か月間、アイアイハウス2階グループは密状態を回避する観点から、日中活動を「アイアイハウス組」と「アイアイホーム組」の2つに分かれて実施した。日替わりでアイアイハウスとアイアイホームで過ごすこととなり、仲間への日中活動場所の伝え方、グループの分け方や過ごし方、送迎の調整など複雑になりました。しかしいざ過ごしてみると普段はあまり出歩かないアイアイホームの周辺の地理や景観など多くを知ることができました。また分かれて過ごすことにより、全員が落ち着いて過ごせることもできました。

1階グループは個別対応の仲間が多く密になる活動はそもそもあまりしていないが、『ガンバルゾ☆グループ(全仲間3名)』は下請けの作業部屋が狭いので1階の和室も使用し分かれて作業しました。分かれて作業することにより「寂しい」という仲間もおられました。

・PCR 検査陽性者・濃厚接触者

仲間・職員が陽性者	仲間・職員が濃厚接触者
なし	1名(職員)

仲間・職員がPCR 検査陽性者になることはなかったが、職員が濃厚接触者になることが一度ありました。その職員は濃厚接触者認定がされてから2週間は出勤を見合わせました。他には職員の職場の同僚が陽性者になったり、家族が使っているデイサービスの他の利用者が陽性者となったことがありました。また発熱した仲間・職員が数名あり PCR 検査を受けたがいずれも陰性でした。検査結果が出るまでの間、検査対象者は休みだったが、事業所としては開所を継続しました。アイアイハウスの仲間の実態もあり、なかなか徹底した感染予防ができていたとは言えませんが、アイアイハウスでの日中活動などを工夫し、できる限り今後も基本的な予防策を続けて感染しないように努めていくことが大切です。また発熱者が出た場合の対応(周知する範囲など)にもまだ課題が残っています。

② 仲間関連(主に様子)

- 2020年12月に新たな仲間1名を迎えましたが、2021年1月には仲間1名が他の施設に入所することになり退所されました。現在、新しく迎えた仲間は環境にも慣れられ、元気に通所されています。
- アイアイハウス1階グループは個別対応の必要な仲間が多く、集団で過ごすことが苦手な仲間が多いです。一部の仲間は入所後4年経過したこともありかなり慣れて落ち着いて過ごせるようになっておられます。しかしながら他害がひどく出るようになった仲間もおられます。家庭での過ごし方、ヘルパー利用時の対応も喫緊の課題となっています。
- アイアイハウス2階の仲間は、退所者もあり現在6名となっています。空間的には適正人数と思われませんが、アイアイホームとほぼ同じメンバーとなっており、暮らしの場と日中活動の場での仲間の変化が少ない状況です。ずっと一緒にいるということからのストレス問題が以前から指摘されています。今後は1階グループの活動に2階グループの一部が参加するなど分かれて過ごすことも試しながら対応していく予定です。

③ 事業所関連

- 法人の理念や基本方針とは別にアイアイハウス(上京)では「 ONE 上京 」というテーマを掲げています。これは仲間・職員が空間的に1階、2階が完全に分断されていた状態から脱却し、一体としてのアイアイハウス(上京)を目指す事を意味しています。またコロナ禍の中にあり、運動不足やストレスを解消できる取り組みを促すためのテーマも2021年度は検討しています。
- 2020年度も月一回アイアイハウス(上京)の広報誌「かみぎょうしんぶん」を発行しました。仲間の日中活動の様子を伝えることを第一の目的としています。職員のワードスキルや写真撮影のスキルが上達しました。法人のホームページにも掲載されています。
- 職員の育成については、2020年度は法人研修のみとなっていました。職員の育成は急務と思われるので内部研修、外部研修問わず2021年度は実施していく予定です。内部研修については「考える・話す」をメインテーマとして実施していく予定です。今後は常勤職員だけでなく非常勤職員も参加できる形をけんとうしていきます。

2020年度 紫竹アイアイハウス 事業報告(案)

文責:栗津 浩一

仲間状況

- ② 定員:20名
- ③ 現員:20名(男11名 女9名)
- ④ 一日利用者数概算:14名~17名
- ⑤ 年齢構成:20歳~50歳
- ⑤ 障害支援区分

区分4	区分5	区分6
3名	3名	14名

⑥ 入退所経過

- 2020年7月 1名入所

職員状況

- ③ 常勤職員:13名(男8名 女5名) ※うち看護師1名
- ④ 非常勤職員:6名(男0名 女6名) ※うち調理専属1名

施設

- ① 設置等経過
特になし

保健

- ① 看護師勤務

・常勤看護師が勤務し、仲間の日常の健康観察をおこなっています。擦り傷等の軽微な怪我の対応を行いました。また、発作の薬等の保管に努め、家族と連携して適切な使用を行いました。また、法人内の他事業所からの仲間の健康相談も行いました。新型コロナウイルス対策には指導的な役割を果たすことができました。

- ② 歯科健診

・仲間の歯科健診は実施出来ていません。今後の課題です。

- ③ 新型コロナウイルス対策

・出勤時の職員の検温を行い記録しています。

・職員は手洗い・消毒、マスクの着用を実施しています。マスクの着用に関しては、職員は出勤時に事業所常備の不織布マスクを使用し、1日の業務終了後に廃棄しています。仲間についてもマスクの着用が可能な仲間には常時のマスクを着用してもらうようにつとめました。外出の際などポイントを絞ればある程度マスクのできる仲間もおられました。

・昼食時は仲間と職員は時間差を付けて取る、同じ向きで摂るなど実施しました。

・飛沫防止用アクリル板についてもできるだけ使用しています。

・通常時の定期的な PCR 検査は実施できていません。職員に関しては次年度実施の予定です。

- ④京都市からの新型コロナウイルス用物資の供給

マスク	フェイスシールド	消毒液
-----	----------	-----

防災

- ① 避難訓練

・月一回仲間・職員合同で避難訓練を実施しています。毎回テーマや内容を変えています。2020年度は「火災」「地震」「大雨」などを想定し、それらを組み合わせたものも実施しました。消防署の立ち会いは出来ておらず、次年度の課題でもあります。

- ② 災害救助用物資

・2021年3月に京都市から災害救助用物資が配給されました。

毛布	凝固剤	飲料水(1缶490ml)	米粉クッキー	アルファ化米
50枚	400回分	144缶	100食分	90食分
お粥	紙おむつ			
50食	52個			

仲間活動

- ① 仲間の活動

・年度初めから新型コロナウイルス感染症の関係で、外出企画や行事が大きく制限された1年となりました。

・自主製品として、フェルト製品や紙製品(封筒・メッセージカード)の作製に取り組みました。毎日の積み重ねで仲間も作業に慣れ、季節ごとの商品の企画も楽しんでいきます。販売の機会は全くなくなりましたが、きょうされん斡旋の物品販売に自主製品のカタログを載せること

で一定の販売がありました。きょうされん物品の販売では一昨年のように配達に出かけることは出来ませんでした。が、収益で仲間のボーナスを支給することができました。

- 染め物の製品作りも4年目に入り、作業工程にも慣れてきました。普段はグループ別に取り組むことが多い中、染め物作業はみんなで賑やかに取り組んでいます。大型作品の屏風の作成に取り組み、あい藍アートワーク(アイアイハウスの支援団体)の展示販売会にも出展することが出来ました。
- 言葉と音楽、創作活動にも引き続き取り組みました。季節感を大切にして、鯉のぼりや七夕、母の日の企画やクリスマスなど色々な企画をたてて楽しみました。生活活動では、フロア清掃や整理整頓を中心に、自分たちの生活環境と整える活動をしました。夏場にはみんなで送迎車両の洗車をするなど、新しいアイデアを取り入れ、仲間の得意な内容を中心に頑張りました。
- 仲間の会では、外出企画が出来ずほとんど室内企画のとりくみでした。「ゲーム大会」「フォークダンス・ディスコ」「宝探しゲーム」「段ボールくずし」「卓球バレー」「魚釣りゲーム」「縁日を楽しもう」「盆踊り大会」「ボーリングゲーム」「PKゲーム」「エレキギター大会」「牛乳パック倒し」「初詣」「節分の豆まき」「DVD鑑賞」「ひなまつりパーティー」「スヌーズレン」「アイアイ喫茶」「鴨川でお花見」など、毎月ごとに仲間の会で仲間たちの意見を募って取り組みを決めました。
- 「クリスマス会」では(株)イオンクレジットサービス様から仲間へのクリスマスプレゼントの寄付をいただきみんなで楽しく過ごせました。
- 土曜開所や祝日開所では、昨年度は外部団体に公演依頼をして、よさこい踊り、音楽公演、ジャグリングショーなどを企画しました。が、今年度は仲間の会と同じような室内企画が多くなりました。

② 行事

- 「法人の集い」「フナオカスタンダード」「日帰り旅行」など行事は実施できていません。

③ その他

- 2020年度も月一回紫竹アイアイハウスの広報誌「しちくだより」を発行しました。仲間の日中活動の様子を伝えることを第一の目的として、誕生日の紹介なども掲載しました。法人のホームページにも掲載されています。

2020年度 ショートステイ紫竹アイアイ 事業報告(案)

- 人事異動もあり4月～8月まではショートステイの稼働をすることが出来ませんでした。
- 9月より再開して6名の仲間が月に1回のペースを基本に利用しました。
- 職員不足の中でも安定してショートステイ事業が継続できるように、新年度に向けての抜本的な改革に取り組む必要があります。

2020年度 アイアイホーム・ショートステイアイアイ 事業報告

文責:福原 友佳

■全体

2015年2月16日より9名定員のグループホーム(共同生活援助)として開設し丸6年が経ちました。この1年は、新型コロナウイルス感染拡大により、可能な限りの感染防止策を行う中、手洗い、消毒、マスクの着用などはもちろんのこと、仲間職員の安心安全な対応を第一に考えた年となりました。日々、仲間職員のみなさんの体調管理を行い少しの不調などや発熱に対して今まで以上の対応が求められました。

これまで、夕方と夜間(夜勤)に「誰に・どのような支援が・必要か」を考え、まずはご家庭での暮らしとの変化を最小限にする工夫(入浴時間・就寝時間など)を行い続けてきています。毎週、月曜日から金曜日までの全員宿泊を実施し、それぞれ土日にはご自宅に帰省されていきました。しかしながら、女性職員の退職が重なり、急激な人手不足となったことで、10月頃から通常の宿泊が行えなくなった次期がありました。法人全体の課題として、今まで以上に日中事業所職員の協力を得ながら宿泊体制を調整してきましたが、ご家庭への負担はもちろんのこと、仲間のご様子にも影響が出てしまうことがありました。

■職員体制

年度当初4月に男性職員1名異動、7月末に女性職員1名退職、9月末に女性アルバイト職員1名退職と続き、より職員体制が困難な状況となりました。急遽派遣会社を利用し職員確保に努めましたが、通常の宿泊体制が調整できず、不規則な宿泊日が続いた1年となってしまいました。今後新たな職員確保をしていく中でも、男女各2名の夜勤体制が必要な中、より勤務状況を改善していく手立てが望まれます。また、管理者を位置づけ安定した職員体制など日々安心して過ごせるアイアイホームの運営が求められます。

■仲間について

2021年2月には女性仲間1名の退所がありました。ご家族が困難な状況となられ約4年あまり、これまで土日や長期休暇中は外部のショートステイを利用しながらアイアイホームでの暮らしを続けておられました。そんな中、月に一度ご利用されていたショートステイ先での施設入所が決まりました。

グループホームの制度設計の脆弱さもあり、常時の医療的ケアが必要となった場合にアイアイホームでの暮らしを支えることが困難となり、家族の介護力が低下した中でのその人の暮らしをどう支えるかということが引き続き大きな課題となっています。

2020年度 ヘルパーステーションアイアイ 事業報告

文責:藤田 真人

仲間の生活支援の課題が増大する中、アイアイハウスの仲間やグループホームの仲間の暮らしを支えていくためにヘルパーの職員確保を進めてきました。法人内でヘルパー資格保持者が支援体制に加わることで、安定した支援体制の拡充に努めました。また、法人としてヘルパー資格(初任者研修)取得の助成制度を新たに作り、3名の常勤職員が資格取得に至りました。ヘルパーとして支援に加われる職員の確保で支援を充実させ、合わせて収入増も目指しました。仲間やご家族の加齢や体調の急変などにより、通院等介助を利用しての支援時間数も増えてきています。

2020年度 相談支援センターアイアイ 事業報告

文責:藤田 真人

常勤1名体制で指定特定相談支援事業に取り組んできました。37名(昨年度37名)の仲間の利用計画作成や日常生活相談を行ってきました。東部自立支援協議会相談支援部会に所属し、ス

キルアップ研修に参加を重ねました。また、相談支援専門員のスキルアップのため 6 月に主任相談支援専門員の資格を取得しました。

☆日常の業務

- ① 支援計画作成のための面談(希望する生活や現況の聞き取り)や、利用している事業所の把握
- ② 支援計画を作成し、役所(福祉事務所)へ提出・ワーカーへの内容の説明
- ③ ケースカンファレンスの日程調整・開催、議事録作成
- ④ モニタリング実施(利用している各事業所での支援状況の聞き取り・満足度の聞き取り・3ヶ月～半年に1度)
- ⑤ 支援状況に変化が出た際にあらたな支援計画の作成・提出
- ⑥ 入院加療が必要になった仲間・家族支援 病院ケースワーカーとの連携・情報共有
- ⑦ 介護保険への移行支援と介護保険ケアマネと連携して継続支援
- ⑧ 電話相談
 - ・さまざまな事業所からの支給内容の確認や支援内容の相談など
 - ・ワーカーからの支援計画についての相談など
 - ・仲間家族からの移動支援や短期入所などの新規利用事業所探し相談
 - ・在宅の仲間・家族からの相談(手帳取得や支給決定の取り方など)

☆来年度の課題と目標

仲間や仲間の生活を支えているご家族の加齢や急病により、支給内容の大幅な変更が必要になるケースが増えてきています。現在の制度を知悉し、「必要な時に必要な支援を受けられる環境を作る」ことが相談支援に求められる役割であると感じています。

これらの課題を解決するために、普段から仲間や支援の中心であるご家族の状態を福祉事務所ワーカーや支援事業所と共有し、急な変化にも対応できる環境を作っていきます。支援計画作成の際には仲間・ご家族に積極的にたくさんの事業所を利用して「支援の輪」を作っていくことを提案していきます。

今後も地域の中で連携や情報共有が行いやすい環境を作っていきます。医療ケア・医療的ケアが必要となった仲間支援のため、対応できる事業所のリストアップと実践事例集めを行っていきます。

制度のはざまで行き場所のない仲間を生み出さないよう、支援事例の中で生じた制度上の不備や矛盾など(例:入所施設で移動支援が利用できない件、療養介護の利用要件緩和等)を自立支援協議会などで提議していきます。